



[令和 8 年 8 月 15 日 定例会発表主旨]

軽川の明治期の古記録[書簡]を発見！！

— 古記録から浮かび上がる佐藤 文平と開進会社、手稲中央小学校の成り立ち —

顧問 茂内 義雄

手稲中央小学校の起源を調べる中で、私が最近入手した手稲の開拓初期の古記録から、一人の人物が浮かび上がってきました。それが佐藤文平です。

佐藤 文平は、手稲の開拓に深く関わり、後の手稲村史では「学校世話係」としても記録されています。また、大正 10 年(1921 年)の手稲村開村 50 周年では、地域の発展に尽くした功労者の一人として、その名が挙げられました。

今回の古文書からは、佐藤文平の当時の暮らしや地域との関わりがうかがえるとともに、学校の開設にも関わっていた可能性を示す手掛かりが得られました。

さらに、他の文献には、佐藤 文平が校長を迎えることに関わった記録も残されています。

佐藤 文平を軸に歴史をたどることで、手稲中央小学校の誕生と、手稲の開拓の歩みがつながって見えてきます。

■ 開拓のまち・軽川と北海道開進会社

明治初期、現在の手稲本町周辺は、「軽川」と呼ばれていました。

明治 13 年(1880 年)に小樽—札幌間の鉄道が開通し、翌 14 年には軽川に停車場が設けられます。交通の要衝となった軽川には人や物が集まり、開拓が進みました。

こうした時代に、北海道の開拓と、明治維新によって生活基盤を失った士族の授産を目的として設立されたのが北海道開進会社です。

明治 12 年(1879 年)、岩橋轍輔らによって設立された開進会社は、明治 14 年に下手稲村へ進出。軽川に会所を設け、開墾事業を始めました。

しかし、資金難などから事業は行き詰まり、明治 17 年(1884 年)4 月に解散します。

■ 開進会社の事務所から学校へ

開進会社が解散した同じ年、明治 17 年 11 月 25 日、下手稲小学校が開校しました。

児童 15 人、先生は校長 1 人。札幌市の郷土史資料には、最初の校舎について「開進会社という会社の元事務所」と記されています。

開拓の拠点だった会社の事務所が、地域の子どもたちが学ぶ学校へと受け継がれたのです。

そこに「学校世話係」として記録される佐藤 文平の存在を重ねると、単に「事務所が学校になった」というだけでなく、地域の人々が学校を必要とし、その開設に動いた背景が見えてきます。

■ 「最初の学校」は、どこにあったのか

現在の郷土史資料では、開進会社の元事務所を「現在の手稲本町 2 条 5 丁目」としています。

一方、北海道立文書館には、明治 14 年当時の開進会社の土地・道路関係図など、所在地を探る手掛かりとなる史料が残されています。

私は、これらの古文書や土地の記録に、佐藤 文平の足跡を重ねながら、「手稲中央小学校の本当の出発点は、正確にはどこだったのか」を探っています。

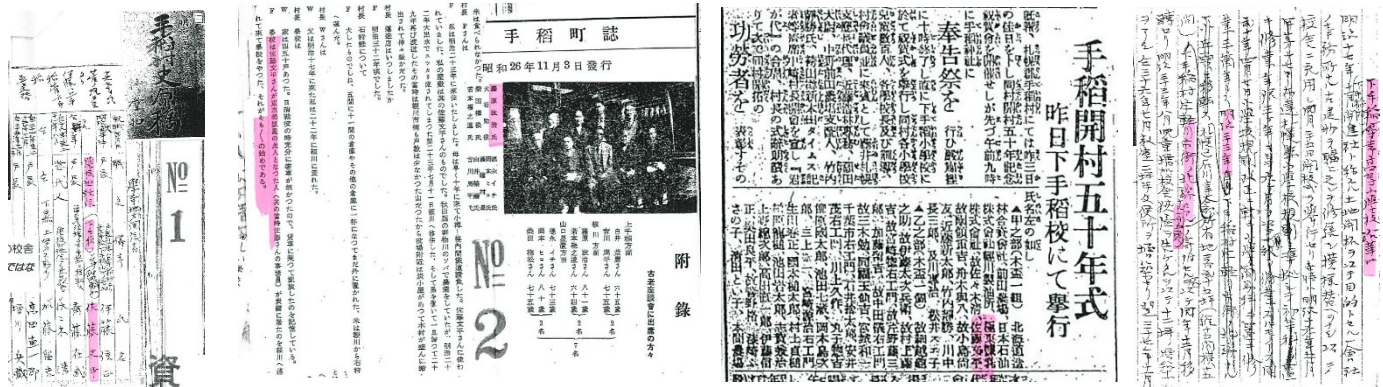
■ 下手稲小学校から現在へ

明治 17 年に「下手稲小学校」として始まった学校は、時代とともに名称や制度を変え、昭和 27 年(1952 年)に「手稲中央小学校」となりました。昭和 42 年(1967 年)の手稲町の札幌市編入を経て、現在の「札幌市立手稲中央小学校」へと続いています。

わずか 15 人から始まった学校。その原点には、手稲の開拓、北海道開進会社、佐藤 文平、そして地域の人々による教育への働きかけがありました。

私は今、新たに得た古文書を手掛かりに、佐藤 文平の足跡と開進会社の活動を読み解きながら、手稲中央小学校の「始まるの場所」と、そこに至った人々の暮らしや歴史をさらに明らかにしていきたい。





手稲の砂丘で見つけたクジラの化石

顧問 若松 幹男

1967年（昭和42年）頃、手稲区前田の紅葉山砂丘で行われていた札幌市下水道関係の掘削工事現場でクジラの化石が出てきたので見に来いと連絡があった。

当時、札幌市下水道関係の地質調査に携わっていたこともあって呼び出されたものである。

化石はクジラの脊椎1個であった。小生が預かることになり、保管を北大理学部地質学鉱物学卒業同期であり、同学科ドクター課程在学の大嶋和雄に依頼した。

しかし、残念ながら、彼が一昨年に亡くなったため、その化石の行方は不明である。後に述べることなどから、その化石はセミ（背美）クジラの化石であろうと推測される。

上記のクジラの化石発見から約6年後の1973年（昭和48年）に手稲区前田ポンプ場施設建設工事中にクジラの化石が発見され、札幌市博物館活動センターの田中嘉寛が2026年（令和8年）1月15日に「札幌から見つかった完新世（第四紀）のセミクジラ化石について」との論文を報告している。

この論文によると前田砂層（紅葉山砂丘）の底部、地下約10mで発見された5個の化石（頸椎、背骨）を鑑定した結果、これらの化石はセミクジラであると判定している。

なお、開拓記念館の赤松守雄がさっぽろ文庫「地形と地質」に同じ時期、同じ場所で発見されたクジラの化石をホッキョククジラと記載しているが田中嘉寛はこれもセミクジラであると述べている。

2008年（平成20年）10月に札幌市小金湯の豊平川河岸でクジラの化石が発見され、札幌市博物館活動センターで鑑定した結果、1000万年前のセミクジラ化石と判定された。

以上で述べたように、札幌で発見されたクジラの化石は何れもセミクジラである。

【クジラの発達史】

時代	クジラの変遷
6,600万年前	恐竜絶滅、哺乳類多様化、クジラはまだ
5,000万年前	クジラの祖先：カバと同じ祖先から枝分かれ
4,800万年前	水辺に進出：ワニに似たような生活
4,500万年前	水中生活が中心：陸上生活も可
4,000万年前	海洋生活：全長15～20m、現代型の体
3,500万年前	ヒゲクジラ類、ハクジラ類に分岐
2,000万年前	プランクトン大量発生：ヒゲクジラ大型化

狼に似たクジラの祖先



セミクジラ（背美鯨）頭が全長の四分の一



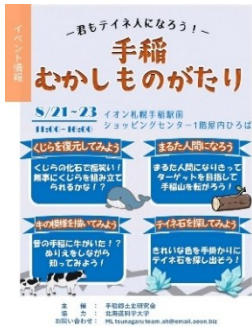
クジラは5,000万年前頃、カバと同じ祖先から枝分かれしてこの世にあらわれた偶蹄類であり、その体が大きさ、姿ともに狼に似た陸上生活動物であった。

上記のような発達史をたどり、3,500万年前にヒゲクジラ類とハクジラ類に分かれた。なお、札幌で発見されたセミクジラはヒゲクジラ類に属している

1 「ていねむかし物語」

昨年に続き、「ていねむかし物語」を、昨年同様イオン北海道様と北海道科学大学様の協力を得て開催しました。

- ◇ 場所：イオン札幌手稲駅前店 1 階広場
- ◇ 日時：令和 8 年 8 月 21 日(金)～23 日(日)(3 日間)
- ◇ 内容：①クジラを復元しよう(パズル)、②テイネ石を探してみよう(体験)、③牛の模様を描いてみよう(塗り絵)、④まるた人間になろう(体験)
- ◇ 状況：期間中、331 名(うち小人 157 名)が来訪し、楽しんでいました。



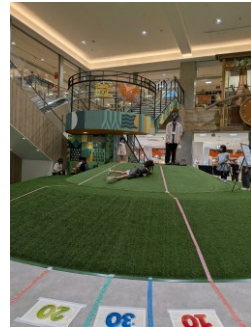
【PR】



【パズル】



【ていね石探し】



【まるた人間】



【塗り絵】

2 「大人の一日散歩」

本年 5 月 4 日、悪天候で中止となった北大植物園「大人の一日散歩」について、以下の要領で再度計画し、開催いたしました。(開催の様子は、次号)

- ◇ 場 所：北海道大学構内、清華亭
- ◇ 日 時：令和 8 年 9 月 18 日(金)9 時 00 分(手稲駅改札口集合)～12 時 00 分頃まで
- ◇ 内 容：観光ボランティアとともに、北海道大学構内等をまわる。
- ◇ 受 付：同年 9 月 11 日(金)までに、担当：梶本(Tel 090-2876-6035)に連絡する。
- ◇ 費 用：一般 300 円(会員無料)

3 日帰り研修旅行

本年事業計画に則り、以下の要領で開催いたします。

- ◇ 訪問先：三笠博物館、ジオパーク、奔別炭鉱跡、千人塚史跡公園 他
- ◇ 日 時：令和 8 年 10 月 24 日(土) 午前 8 時 15 分 手稲区役所ロビー集合
- ◇ 定 員：45 名
- ◇ 受 付：同年 10 月 17 日(土)までに、担当：梶本(Tel 090-2876-6035)に連絡する。
- ◇ 費 用 ¥5,000 (昼食代 含まず) 募集人員 40 名目標

4 8/28 道新「さっぽろ 10 区」掲載

右記のとおり、「さっぽろ 10 区 MY タウン手稲区」の記事として、当会が取り上げられました。

定例会の様子、「子供歴史講座」、「ていね歴史まつり」など、当会の活動や、沖田会長の今後の想いが掲載されました。

今後も研究を続けていきたい。
そして、いつか区内に膨大な資料を
保管する郷土資料館を設置したい。

b y 沖田 紘昭



5 訃報のお知らせ

当会の顧問であり、手稲郷土史研究会に20年間、ご尽力された「鈴木 清士」様が、8月31日、92歳で老衰のため永眠いたしましたことを、ご報告いたします。

【次回定例会】令和8年10月17日(土) 13時30分～ 区民センター3階視聴覚室

◆ 発表内容 当別町歴史ボランティアアドバイザー当別文芸の会 代表
開拓の村ボランティア 東前 寛治 様

手稲郷土史研究会 会報「郷土史ていね」第221号 令和8年9月19日発行

発行責任者：沖田紘昭（手稲郷土史研究会 会長）

編集：伊藤 政克・駒ヶ嶺 智史

❖ 006-0818 札幌市手稲区前田8条11丁目4-5 林 俊一 方 手稲郷土史研究会

TEL 090-3381-4994 FAX 011-682-9874

❖ メールアドレス teinenorekishih@gmail.com 担当：菊池 博行